

すぐに わかる えびののこつ
いっき わかい えびのんこつ



ばし めがね橋

つき きがわばし
(月の木川橋)



しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

もくじ
目次

1. めがね橋^{ばし}はどこにあるの？ 1
2. 何^{なん}のために、めがね橋^{ばし}は造^{つく}られたの？ 2
3. なぜ、石^{いし}で橋^{はし}を造^{つく}ったの？ 5
4. めがね橋^{ばし}はいつ造^{つく}られたの？ 7
5. めがね橋^{ばし}はどうやって造^{つく}ったの？
 - ①どこから石^{いし}を運^{はこ}んできたの？ 8
 - ②石^{いし}はどうやって積^つんだの？ 8
 - ③最後^{さいご}に積^つんだ石^{いし}はどこ？ 9
6. めがね橋^{ばし}の大き^{おお}さは？ 10
7. 森林鉄道^{しんりんてつどう}（トロッコ）について 11

1. めがね橋はどこにあるの？



いいのえき やく はな したおこびらちく あり
飯野駅から約3km離れた下大河平地区の有

しまがわ か したおこびらちく ありしま き
島川に架かっています。下大河平地区の有島と佐

ぎゅうの むす
牛野を結んでいます。

ばし なまえ つき きがわばし
めがね橋の名前は「月の木川橋」といいます。

つき きがわばし か つき じ
(槻ノ木川橋とも書きます。「槻」という字は、ケヤキ

き ふる なまえ
の木の古い名前です。)

くにとうろくゆうけいぶんかざい とうろく へいせい ねん がつ か
国登録有形文化財に登録(平成10年9月2日)

されています。



2. 何のために、めがね橋は造られたの？



くまもとえいりんきょく やまおく おお もくざい
熊本営林局がクルソンの山奥の大きな木材を

いいのえき ちょぼくじょう もくざい ばしよ
飯野駅の貯木場（木材をたくわえておく場所）ま

はこ だ
で運び出すため、

とお
トロッコが通る

せんろ いちぶ
線路の一部とし

つく
て造られました。



いいのちょぼくじょう しょうわ ねんごころ
飯野貯木場（昭和30年頃）



やまおく おおひらやまこく
クルソンの山奥（大平山国

ゆうりん きよぼく
有林）には、巨木（モミ・ツ

ガ・カシ・ケヤキなど）の

ほうふ しんりんしげん おおひらかんこうしゃく
豊富な森林資源があり、そのため、「大平官行斫

ばつじょ おおひらかんこう き ばっさい うんぱん せいざい
伐所（大平官行）」という木の伐採・運搬・製材を

ところ
する所ができました。

つぎ おおひらかんこうしゃくばつじょ おおひらかんこう きじゅつ
※次のページより「大平官行斫伐所」は「大平官行」と記述します。

おおひらかんこう ばしよ
大平官行の場所は、

せんだいがわさいじょうりゅう
川内川最上流にある

おおひらやま くまもとけん
大平山(熊本県)の

やま
山あいがありました。



おお とき やく にん す いいのしょう ちゅうがっこう
多い時は約150人住んでいて飯野小・中学校

ぶんこう おおひらぶんこう
の分校(大平分校)もありました。

むかし いま どうろ せいび
昔は、今のように道路が整備されていなくて、



じどうしゃ ひろ
自動車もまだ広くいきわ
たっていませんでした。

おおひらかんこう いいのえき ちよぼくじょう
大平官行から飯野駅にある貯木場までは20

いじょう はな おおひらかんこう ひと
km以上も離れていました。大平官行の人は、ここ

もくざい いいのえき
から木材を飯野駅にある

ちよぼくじょう はこ
貯木場までどうやって運んだら

かんが
いいかを考えました。



いいのえき ちよぼくじょう さいたんきより はこ
飯野駅にある貯木場まで最短距離で運ぶに

ありしまがわ こ
は、まず有島川を越えなければなりませんので、

はし かんが
そこに橋をかけようと考えました。



こうりつ はこ
また、効率よく運ぶにはどうしたら

かんが けっか もくざい うんぱんせんよう せんろ
よいのかも考えた結果、木材の運搬専用の線路

しんりんてつどう どう
(森林鉄道・トロッコ道)をひいて、「トロッコ」に

もくざい はこ
木材をのせて運べばよいと

かんが
考えました。



もくざい はこ れっしゃ れっしゃ いいのえき む おおひらぶんこう こ ほごしや しょうわ ねん
木材を運ぶトロッコ列車とトロッコ列車で飯野駅へ向かう大平分校の子どもと保護者たち(昭和32年)

そこで頑丈なコンクリートの橋を造ろうとしまし

たが、橋を架けようとしたこの場所は、いくら掘って

も地盤が出てこない上に土の質が悪く、コンクリー

トの橋を支えることができませんでした。

そのため、コンクリートの橋を造ることができず、

石の橋を造ることになったといわれています。



4. めがね橋はいつ造られたの？



しょうわ ねん がつ ちゃっこう しょうわ ねん
昭和2年(1927)2月に着工して、昭和3年(1

がつ かんせい けんせつ うけおいにん いしく
928)2月に完成しました。建設の請負人と石工

がしら にんぶがしら かごしまけんくしきの ひと
頭、人夫頭は鹿児島県串木野の人たちでした。

うけおい きじつ ひよう
【請負】期日や費用をはじめにきめて、仕事のすべてをひきうける。
(参考文献/『ベスト教科辞典 国語辞典』 株式会社学習研究社)



はし いぐち た さゆういつい にしがわ はしら
↑橋の入り口に建つ左右一對の西側の柱。
みぎて いいのりんどう きざ ひだりて
右手に「飯野林道」と刻まれ、左手には
つきのきがわきようきょう きざ
「月乃木川拱橋」と刻まれています。

はし いぐち た さゆういつい ひしがわ はしら
↑橋の入り口に建つ左右一對の東側の柱。
みぎて しょうわさんねん にかつしゅんこう きざ ひだりて
右手に「昭和三年二月竣工」と刻まれ、左手
には「熊本営林局」と刻まれています。

きょうきょう がた はし
【拱橋】アーチ型の橋。(参考文献/『広辞苑 第三版』 株式会社岩波書店)



はし ひしがわ い
↑橋の東側入り
ぐちてまえ せきひ
口手前の石碑。
しゅんこうきねん きざ
「竣功記念」と刻
まれています。こ
のせきひ うけおいにん
の石碑に請負人・
いしく もじ
石工などの文字
が刻まれています。

にしめん 西面	しゅんこうきねん 竣功記念
みなみめん 南面	しょうわにねんしちがつきこう どうさんねんにかつしゅんせい 昭和二年七月起工、同三年二月竣成 かごしまけんひおきぐんくしきのむらかんみょう 鹿児島県日置郡串木野村上名 うけおいにん ひださへえ これをたてる 請負人 肥田佐兵衛 建之
きためん 北面	かごしまけんひおきぐんくしきのむらかんみょう 鹿児島県日置郡串木野村上名 いしくがしら ふくだきゅうたろう 石工頭 福田休太郎 いしく 下青木 清 どう 小門権四郎 にんぶがしら さいご 人夫頭 原口有吉(最後の吉は定かではない)
ひがしめん 東面	○園新之助 刻 (最初の○は石の表面がつつぶれて いて判読不能である) ※名前などふりがなのないものがあります。

引用文献:『とこしえの森 巢の浦・大平』甲斐嗣郎/著

5. めがね橋はどうやって造ったの？



①どこから石を運んできたの？

石は有島川上流の山（土川）から運んできました。
※石は溶結凝灰岩（加久藤カルデラの噴出物）

約50cm角の切石を沢山切り出して、その石を

木馬（枕木のようなものを敷い

てソリのように引くもの）を

使って運んだといわれています。



木馬のイラスト
イラストでは人が引いていますが、牛や馬で引いたといわれています。

②石はどうやって積んだの？

橋を架ける場所に大工さんが木でやぐらを組

み、それに基づいて両端から1個1個の石を積んでいきました。



石と石の間は

土とセメントで接着

しました。



③最後に積んだ石はどこ？

アーチの一番真ん中に「要石」という五角形の

石を入れ締め上げたら、木のやぐらはずします。

最後の作業が一番たいへんだったといわれています。



↑アーチの真ん中にある五角形の「要石」

これらの作業はすべて人の力だけで行われました。

今のように機械で作業するのではないので、とてもたいへんなことでした。

この橋と線路をつくり上げるのに、数千人もの

人たちが汗をながして働いたといえます。

橋ができあがり、森林鉄道の長さは約30kmにもなりました。

6. めがね橋の大きさは？



めがね橋は3つのアーチからなっている、三径間

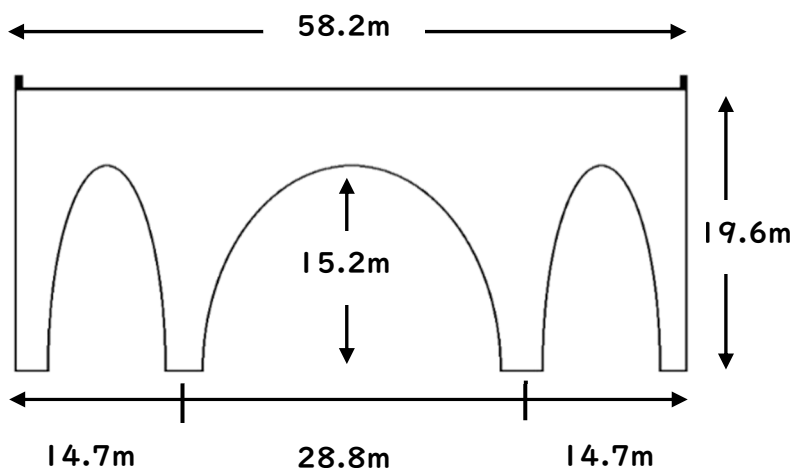
の「石造アーチ橋」と呼ばれる種類です。

この橋を造る技術は、古代ローマから伝わってきたものだといわれています。

橋の長さ58.2m、高さ19.6m、幅員2.3m（全幅

4m）で左右の径間はそれぞれ14.7m、中央径間は28.8mです。

【径間】橋の支柱から支柱までの間隔
【幅員】艦船や道・橋などの横の長さ。はば。
【全幅】はばいっぱい。
(参考文献/『広辞苑 第三版』株式会社岩波書店)



7. 森林鉄道 (トロッコ) について



しんりんてつどう いいのちよぼくじょう おでらおとし はちまんがおか した
 森林鉄道は飯野貯木場～大平落～八幡丘の下

とお ありしま したお こびら いしとこ きょう
 を通り～有島～下大河平～石床～クルソン峡へと

きょうほうすいろ そ ふせつ
 享保水路に沿って敷設されました。

【敷設】(鉄道などを)その
 場所に設置すること。
 (参考文献/『広辞苑 第三版』 株式
 会社岩波書店)

きょうほうすいろ せんたいがわじょうりゅう いしとこ いせき もう いいのへいやいったい
 【享保水路】川内川上流の石床に井堰を設け飯野平野一帯
 の水田を潤す水路として享保17年(1732)に完成しました。
 (参考文献/『史談会誌「えびの」33号』えびの市史談会)



しんりんてつどう
 森林鉄道は、

もくざい うんぱん きょうしゅうへん せいかつ
 木材の運搬だけでなくクルソン峡周辺に生活する



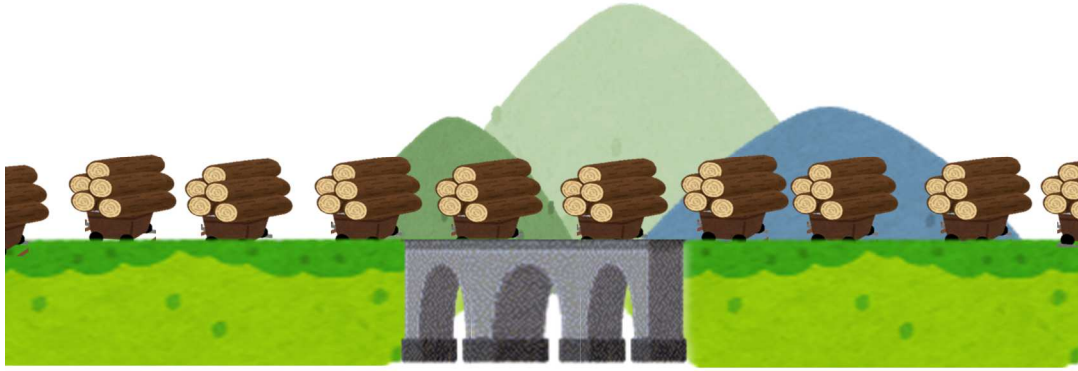
ひとびと あし
 人々の足にもなり、

ひとびと いどう
 人々の移動にかか

せない生活の一部

でもありました。

しんりんてつどう りょう いいの まち て ひとびと しょうわ ねんごろ
 森林鉄道(トロッコ)を利用し、飯野の町に出る人々(昭和30年頃)



さいせいき だい まいにち い き
最盛期には18台ものトロッコが毎日行き来して

おお もくざい はこ ご じどうしゃ
大きな木材を運んでいましたが、その後、自動車の

ふきゅう ひつようせい
普及などによりトロッコの必要性がなくなってい
きました。

しょうわ ねん もくざいうんぱん つく
昭和37年(1962)、木材運搬のため造られた

しんりんてつどう はいし
森林鉄道は廃止されました。

ご ばし うえ じどうしゃ とお どうろ
その後、めがね橋の上は自動車が通る道路にな

りましたが、あんぜんじょう りゆう げんざい しゃりょうつうこうど
りましたが、安全上の理由で現在は車両通行止め

ひと とお
になり、人だけが通る

みち
道となっています。



参考・引用文献

<図書>

資料名	発行年	著者・編者	出版社・発行所など
えびの市史 下巻	1998年3月	編/えびの市郷土史編さん委員会	えびの市
史談会誌「えびの」第32号	1998年4月	えびの市史談会	えびの市史談会
史談会誌「えびの」第33号	1999年4月	えびの市史談会	えびの市史談会
史談会誌「えびの」第53号	2019年6月	えびの市史談会	えびの市史談会
とこしえの森 巢之浦・大平 若き宮林技手 落合兼徳の生涯	2011年8月	甲斐嗣朗	鉦脈社
ここに学校があった 一戦後50年 統合・閉校の記録一	1998年11月	ここに学校があった編集委員会	宮崎県教職員互助会 1998
広報えびの	1998年6月	えびの市役所	えびの市役所
えびの市の文化財	2013年3月	えびの市教育委員会	えびの市教育委員会
ふるさと散歩No.68 (広報えびの)	2004年6月	えびの市歴史民俗資料館	えびの市役所
ふるさと学習 中・小学生のための 「えびのの橋と今(下)」	2010年9月	市田寛幸	えびの市民図書館
眼鏡橋		資料館調べ学習資料	
広辞苑 第三版	1983年12月	編/新村出	株式会社 岩波書店
ベスト教科事典 国語辞典	2000年12月	編/市川俊男	株式会社 学習研究社

【編集協力】 上谷川則男





発行/2023年10月

しれきしみんぞくしりょうかん
えびの市歴史民俗資料館

〒889-4311 宮崎県えびの市大字大明司2-146-2 TEL/FAX 0984-35-3144

ホームページ



Twitter



Facebook

